

市内中小企業景況調査結果（平成30年10～12月）

小幅ながら悪化、来期も同様に悪化するものと予想

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第3四半期（平成30年10～12月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成30年11月15日

- 調査対象時期

平成30年10～12期状況、平成31年1～3期見通し

- 調査回答企業数

39社：建設業6社、製造業6社、卸売業8社、小売業8社、サービス業11社（回収率82%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（30年7～9月期）では全般的に好転していたものの、今期（30年10～12月期）の全産業合計の業況D I（前年同期比）では、業種によりバラツキはあるものの小幅ながら悪化となった。

先行きについては、引き続き小幅ながら悪化するものと予想している。業種別にみると、サービス業では好転するものの、製造業・小売業業では横這い。建設業・卸売業では悪化するものと予想している。

- 今期（30年10～12月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（30年7～9月期）と比較して6.2ポイントと小幅ながら低下し、D Iでは $\Delta 18.4$ とマイナス域での推移が続いている。

業種別の業況をみると、建設業では16.7ポイント上昇し、D Iでも+16.7となっている。小売業でも5.0ポイント上昇したものの、D Iでは $\Delta 25.0$ とマイナス域での推移が続いている。製造業では変化ないもののD Iでは引き続き $\Delta 66.7$ の悪化超となっている。卸売業では14.3ポイント低下しD Iでは $\Delta 14.3$ となっている。サービス業では27.3ポイントと大幅な低下となり、D Iでは $\Delta 9.1$ と前期のプラス域からマイナス域に転じている。

〔売 上〕

全産業で見ると、前期（30年7～9月期）と比較して10.5ポイント低下し、D Iでは△15.4となっている。

業種別にみると、小売業では32.5ポイントと大幅に上昇し、D Iでも+12.5とプラス域に転じている。卸売業でも14.3ポイントの上昇となり、D Iでも±0.0まで戻している。建設業では16.7ポイント低下しD Iでは△16.7となっている。製造業では33.4ポイントと大幅な低下となり、D Iでは△66.7と大幅な悪化超となっている。サービスでも45.5ポイントと大幅に低下し、D Iでは△18.2とマイナス域に転じている。

〔採 算〕

全産業で見ると前期（30年7～9月期）と比較して、3.6ポイントと小幅ながら上昇しているものの、D Iでは△18.4とマイナス域での推移が続いている。

業種別にみると、建設業では40.4ポイントと大幅に上昇したものの、D Iでは△16.7となっている。卸売業でも28.6ポイントの上昇となり、D Iでは+14.3とプラス域に転じている。小売業でも5.0ポイントと小幅ながら上昇しているものの、D Iでは△25.0とマイナス域で推移している。製造業では16.7ポイント低下し、D Iでは△66.7と大幅な悪化超となっている。サービス業では27.3ポイントとかなりの低下となり、D Iでは△9.1とマイナスに転じている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（30年7～9月期）と比較して、18.4ポイントの低下となり、D Iでは△28.2となっている。

業種別にみると、卸売業では1.8ポイントと小幅ながら上昇し、D Iでは△12.5となっている。製造業では16.6ポイント低下し、D Iでは△33.3となっている。建設業では21.4ポイントの低下となり、D Iでは△50.0とマイナス幅が拡大している。サービス業では27.3ポイント低下し、D Iでは△9.1とマイナス域に転じている。小売業でも30.0ポイント低下し、D Iでは△50.0とマイナス幅が拡大している。

●来期(31年1～3月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期（30年10～12月期）と比較して2.7ポイントと小幅ながら低下し、D Iでは△21.1とマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、サービス業では18.2ポイント上昇し、D Iでも+9.1とプラス域に転じるものとみている。製造業では±0.0と変化ないものの、D Iでは△66.7と悪化超のまま変化ない見込み。小売業でも同様に変化なく、D Iでは△25.0と悪化のままの横ばいで推移するものとみている。卸売業では14.3ポイント低下し、D Iでは△28.6となる見込み。建設業でも33.4ポイントと大幅に低下し、D Iでは△16.7とマイナス域に転じるものとみている。

〔売 上〕

全産業で見ると、今期（30年10～12月期）と比較して7.7ポイント低下し、D Iでは△23.1とマイナス幅が拡大する見通し。

業種別にみると、サービス業では27.3ポイントとかなり上昇し、D Iでは+9.1とプラス域に転じるものとみている。建設業では変化なく、

D I では△16.7となっている。製造業でも変化ないものの、D I では△66.7と引き続き悪化超のまま推移するものとみている。卸売業では37.5ポイントと大幅に低下し、D I では△37.5まで落ち込みものとみている。小売業でも37.5ポイント低下し、D I では△25.0とマイナス域に転じるものとみている。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期（30年10～12月期）と比較して9.4ポイント低下し、D I では△27.8とマイナス域が拡大する見通しとなっている。

業種別にみると、サービス業では19.1ポイントと上昇し、D I でもプラス域に転じる見込み。製造業でも16.7ポイント上昇するものの、D I では△50.0と悪化超のまま推移するものとみている。建設業では16.6ポイント低下し、D I では△33.3まで悪化するものとみている。小売業でも17.9ポイント低下し、D I では△42.9まで悪化。卸売業では57.2ポイントと大幅に低下し、D I でも△42.9とマイナス域に転じるものとみている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期（30年10～12月期）と比較して10.3ポイント上昇するものの、D I では△17.9とマイナス域で推移するものとみている。

業種別では、サービス業では18.2ポイント上昇し、D I では+9.1とプラス域に転じる見込み。建設業では33.3ポイントとかなり上昇するものの、D I では△16.7となる見込み。卸売業では変化なく、D I では△12.5で推移。小売業では12.5ポイント上昇するものの、D I では△37.5となる見込み。製造業では16.7ポイントの低下となり、D I でも△50.0とマイナス幅が拡大するものとみている。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期（30年10～12月期）は17.9%の実績となり、前期（30年7～9月期：17.1%）と比較するとほぼ横ばいとなっているが、前年同期（29年10～12月期：27.9%）比較すると沈静化している。業種別で見ると、建設業や小売業では比較的活発に行われたが、製造業では沈静化している。来期については全体で15.4%と今期と比較してほぼ横ばいで推移するものとみている。

●経営上の問題点

建設業では、前回に引き続き「材料価格の上昇」が1位となっており、2位も前回と同様「従業員の確保難」が入り、3位には「熟練技術者の確保難」ほか5項目が入っている。製造業では前回と同様に「需要の停滞」とともに前回2位の「原材料価格の上昇」が1位となり、2位には前回3位の「製品ニーズの変化への対応」と「生産設備の不足・老朽化」が入っている。卸売業では前回と同様に「仕入単価の上昇」が1位となり、2位も前回と同様に「需要の停滞」となっている。小売業では前回2位の「購買力の他地域への流出」が1位となり、2位には「需要の停滞」が入っている。サービス業では前回と同様に「熟練従業員の確保難」が1位となり、2位には「人件費の増加」が入っている。

業 種 別 D I 値 表 平 成 30 年 10 ～ 12 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資金繰り			採算(今期経常利益)
		③	②	③	①	②	②	①	②	③	①	②	③	
全 産 業	39	△12.2	△18.4	△21.1	△4.9	△15.4	△23.1	△22.0	△18.4	△27.8	△9.8	△28.2	△17.9	13.2
建 設 業	6	0.0	16.7	△16.7	0.0	△16.7	△16.7	△57.1	△16.7	△33.3	△28.6	△50.0	△16.7	16.7
製 造 業	6	△66.7	△66.7	△66.7	△33.3	△66.7	△66.7	△50.0	△66.7	△50.0	△16.7	△33.3	△50.0	△20.0
卸 売 業	8	0.0	△14.3	△28.6	△14.3	0.0	△37.5	△14.3	14.3	△42.9	△14.3	△12.5	△12.5	25.0
小 売 業	8	△30.0	△25.0	△25.0	△20.0	12.5	△25.0	△30.0	△25.0	△42.9	△20.0	△50.0	△37.5	△12.5
サービス業	11	18.2	△9.1	9.1	27.3	△18.2	9.1	18.2	△9.1	10.0	18.2	△9.1	9.1	36.4

① 前年同期(平成 29 年 7 月～9 月)と比較した前期(平成 30 年 7 月～9 月)の状況

② 前年同期(平成 29 年 10 月～12 月)と比較した今期(平成 30 年 10 月～12 月)の状況

③ 前年同期(平成 30 年 1 月～3 月)と比較した来期(平成 31 年 1 月～3 月)の見通し

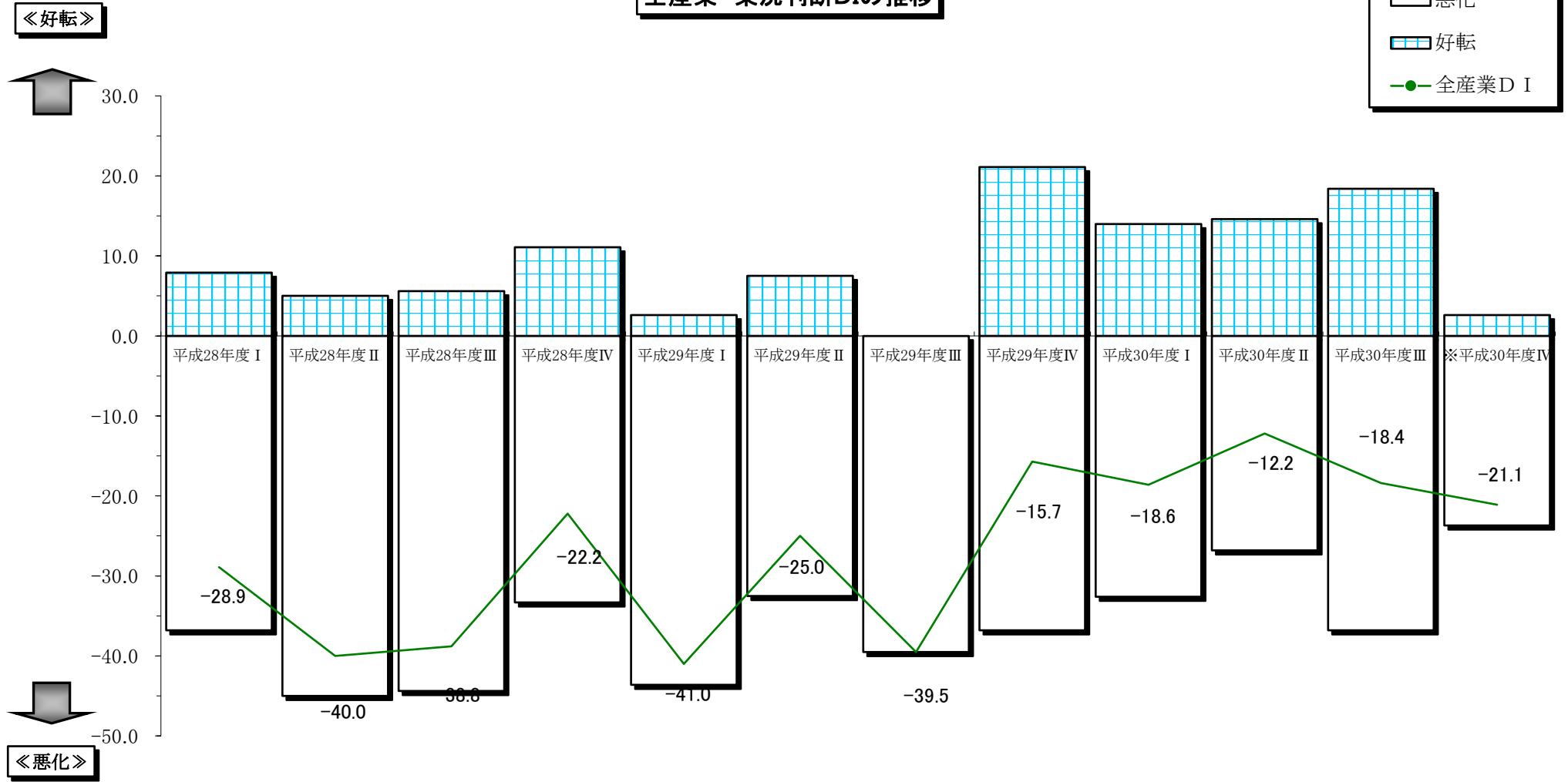
直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	材料価格の上昇	従業員の確保難	材料費・人件費以外の経費の増加／下請単価の上昇／熟練技術者の確保難／下請業者の確保難／民間需要の停滞／若手技術者確保難
製 造 業	原材料価格の上昇／需要の停滞	製品ニーズの変化への対応／生産設備の不足・老朽化	事業資金の借入難
卸 売 業	仕入単価の上昇	需要の停滞	新規参入業者の増加
小 売 業	購買力の他地域への流出	需要の停滞	消費者ニーズの変化への対応
サービス業	熟練従業員の確保難	人件費の増加	利用料金の低下・上昇難

設備投資を今期実施した 17.9 %

設備投資を来期計画している 15.4 %

全産業 業況判断DIの推移



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成30年1～3月）と比較した来期（平成31年1～3月）の見通し